

## 第3回長浜市未来創造会議 会議録

I 日 時 令和5年10月17日（火曜日）14時00分～16時00分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 鵜飼 修委員（座長）

岩崎 博論委員 桐畑 裕子委員 北川 富美子委員

藤谷 法子委員 松井 善典委員 磯崎 真一委員

小出 篤委員 中川 香奈子委員 船崎 桜委員

【事務局】 未来創造部 中嶋部長

政策デザイン課 柴田課長、山崎係長、野村主査

こども若者応援課 村崎局長、茂森係長

デジタル行政推進局デジタル行政推進課 宮川局長、横田課長

## IV 内 容

### 1 開 会

事 務 局 開会を宣言

### 2 部長あいさつ

部 長 【部長挨拶】

### 3 議 事

(1) (仮称) デジタル田園都市国家構想の実現に向けた

長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲載する施策案について

事 務 局 資料1に基づき、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた第3期長  
浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について説明。

- 委 員 1
- ・重要業績評価指標 KPI は何かに基づいて決定しているのか。
  - ・基本目標③の基本的方向5に関して、アウトリーチ事業の実施回数を KPI にしているが、事業回数ではなく参加者数で示すことはできないだろうか。実際に観た、体験したという人が分かる方が波及効果を示せると考える。
  - ・アイデアとして、基本目標④の基本的方向3の南長浜地域のまちづくりについて、例えば文芸会館の建て替え先を南長浜地域の文教エリアとするなどして、文化芸術の活動ができる場所を作ることができればよいと考える。そうならば、長浜の南の地域から文化芸術を盛り上げ

- ることができると思う。
- 事務局 ・ KPI については、総合計画や分野別計画等の KPI と整合をとった指標及び数値を用いている。
- 事務局 ・ 第 2 期総合戦略よりも KPI の設定数を多くし、適切な評価が行えるよう心がけたが、この KPI だけで評価できるかという点も難しいことも理解している。
- 事務局 ・ 南長浜地域については、現在 2050 年の姿を想定したまちの創造を検討している。また、文化ホール等の在り方にも関わる話をいただいたが、市全域において大きな文化ホールが必要かそれとも地域にそれぞれ必要かという課題もある。
- 事務局 ・ アウトリーチの参加者数については現時点で盛り込んでいないが、集計が可能かどうか含めて所管課に確認を行う。
- 委員 1 座長 ・ 人数の把握ができないのであれば仕方ないと思う。
- 委員 1 座長 ・ KPI について気になった点として、14 ページの「SNS 発信数」の目標値が基準値より低い点、これはどういった意図があつたのか。
- 事務局 ・ 原則一律で令和 4 年を基準年としている。
- 事務局 ・ SNS の数値については、令和 4 年の数値が他の年に比べて多かったことから、それまでのベースに合わせて令和 10 年までの数値を設定している。
- 事務局 ・ 広報報道課にも確認したところ、近年 SNS の発信数も伸びていることから計画数値の見直しも検討している。
- 委員 2 座長 ・ 基本目標①の基本的方向 3 で、「働きづらさを抱える方」に対して働きやすいようにという視点の施策が記されているが、働くことを迫られているような印象を受ける。働かないという選択肢を取ってもよいということも記すべきではないだろうか。
- 委員 2 座長 ・ 基本目標③の基本的方向 2 における「次代の親育成の推進」ということについては、どういった想定がなされているか。
- 委員 2 座長 ・ 無理に女性が働きやすいというと、働かなければならない印象を受けることについては同意である。多様な在り方という捉え方ができるようにするのも検討してみてもどうか。
- 事務局 ・ 次代の親育成ということについて、中身は今後詰めていくイメージか。
- 事務局 ・ 次代の親育成については、家庭教育の促進の面から生涯学習課や教育委員会において検討を進めていくべきものと考えている。
- 事務局 ・ 働かないことも含めた多様性ということをどう表現するか難しいと感じる。前提課題として「働きたいけれど、働けない女性が多い」ということもあり、表現の仕方について検討して入れ込めるようであれば対応したい。
- 委員 2 座長 ・ 長浜市ならではの働き方があると思う。例えば、「農業」「草刈り」な

- ど少しの時間でできるようなもののイメージ。
- 座長 ・「長浜らしい働き方の推進」のような捉え方はできるのかもしれない。事務局で検討していただく。
- 委員 3 ・基本目標③の基本的方向1にある「育児休業の取得促進」について、すでに女性の育児休業は世の中に浸透しているので、“男性の”という文言を頭に入れてはどうか。
- ・今後の事業のアイデア出しとして、地域のWi-Fi普及やテレワーク、ワーケーションの支援をもっと進めてほしいと感じる。
  - ・移住について、モデル地区を作ってみてはどうか。移住者だけでなく、親子留学ホームステイや地域サポーターを見守りや橋渡し役にするなど、モデル地区が周知されればPRもできる。
  - ・地域文化の保存も課題であると感じる。集落の人口も減ってきており、世話をすることが難しくなっている地域文化や資源がある。一度廃れたら二度と戻せない部分でもあるので、集落以外の人間が手伝えるようにするなど、せつかくの地域の魅力を維持できるような仕組みが必要と感じる。
  - ・基本目標④の基本的方向2における「多様な主体の協働を推進する新たな仕組みと体制づくり」について、“体制づくり”となると大変なイメージがある。移住のマッチングサイトのように、市民が団体やイベントの情報発信、PR、募集できたり、カレンダー機能があるようなサイト、プラットフォームが一つあれば足りるのではないだろうか。
- 事務局 ・16ページの育児休業については、“男性の”を加える。
- ・移住やテレワークについて、今までのやり方だけでなく+αの部分を考えていく必要がある。モデル地区やサポーター、マッチングサイトなど、いろいろ検討していきたい。
  - ・Wi-Fiの環境整備については、おっしゃるとおりと感じる。民間施設や公共施設など、施設の種別に合わせて検討する必要がある。
  - ・地域の文化保存について、長浜市には多様な地域文化や資源が多くあり、ご指摘の件は課題である。歴史文化基本構想を策定して、地域の歴史文化をどう守っていくか示しているが、地域に頼らざるを得ないところがある。それをどう支援していくかという角度で検討が必要かと考えている。歴史部門は文化観光課という所管となり、対外的に見せていくことで守っていくという方向性の組織変更もされており、意見を共有しながら検討していきたい。
  - ・プラットフォームについても検討していきたい。
- 座長 ・地域の文化継承についてはモデル地区としてやった方がいい。
- ・成功モデルがあると周りの地域も実現できる。
  - ・地域の文化事業について、移住者や関係人口など、外の地域の人に関

- わっていけるとというのは現時点では恐らくできないだろう。
- 事務局 ・地域に担い手が少ないことが課題であり、外の人を受け入れられるかどうかの問題はあるが、新たな外部人材の参画は必要と考える。
- 座長 ・お手伝いしたいという人がいたら、行政が仲介して地域で活躍していただくことをモデルとするなど方法は考えられる。
- 委員 4 ・先ほど働き方の表現の話があったが、用語としては「活動と参加」という言い方がある。自分の人生の時間を何に使うか、就労なのか活動なのか。広い概念で言うと、就労も何かに参加している。
- ・何点かアイデア出しを行う。転入や死亡・婚姻などの機会は、行政との接点であり、そこからの行政サービスのアプローチをデジタルの力で生み出していけばどうかと考えている。例えば、転入後1か月後や3か月後といった決まった時期に自動的にプッシュ通知が飛んでくるようなもので、プレコンセプションケアのような形で婚姻後に子どもを考えている人に「葉酸を摂取していますか？」などの通知が届くなど、デジタルを活用して、かつての村役場のようなサポート体制を提供できるライフコースデザインが可能ではないかと思う。このように、デジタルに温かさや人間性を取り入れたサービスデザインがあれば良いと考えている。子育てコンシェルジュは存在するが、反応がない人やSOSを発している人にはライフコンシェルジュを用意し、より多くの人にアプローチできるようにすることも考えられる。例えば、長浜市内で市民啓発活動や出張授業を行い、様々な生きがいや生き方を支えるデジタルと人間の組み合わせが見えてくるだろう。こうした上流での支援が行われると医療という下流まで流される人は減少していくだろう。
  - ・具体的に言うと、休日診療所を訪れる人の情報が電子カルテに記録されていないため、その状況が現在把握できていない。しかし、休日に頻繁に受診することは、平日に就労が忙しい中でSOSの兆候を示している可能性が高い。デジタル活用と連携により、早期の支援が提供できるようなパーソナルレコードを構築することが重要だと感じる。
  - ・重層的な支援や不登校のケースの情報収集には約2時間かかるため、デジタルで事前に情報を収集することが重要だと感じる。
  - ・長浜を訪れたい観光客が登録すると、関連情報がプッシュ通知で届く仕組みがあれば、地域の産業と観光業において盛り上がりを生むのに貢献できるだろう。例えば、曳山を先頭で引っ張る特別券などがあってもいいかもしれない。
  - ・就労に関しては、ミニマムな仕事を提供できる仕組みや、仕事探しを支援するメルカリのようなプラットフォームが存在すると、個々の希望に合った雇用を見つけることができるだろう。ウェブの力はこうし

た分野で重要な役割を果たすと考えている。

- ・医療法などの問題があるかもしれないが、“産婦人科アバター”を作成し、相談できる体制が整っていれば、受診までのスムーズな経路を提供できるかもしれない。
  - ・プラットフォームづくりという点では、神奈川県「丘の上のお医者さん」というサイトが参考になる。特に10代から20代の女性を対象にサポートを提供し、相談の受け入れ口として機能している。
- 事務局
- ・福祉や学校現場における個人情報の管理については、正確な情報が不足しているが、デジタルの力を活用して、これらを統合し、省力化し、高品質なサービスを提供することがデジタル総合戦略のテーマとして非常に重要である。個別の側面については、お話いただいた内容を庁内で情報共有し、検討していきたい。
  - ・就労の切り出しも重要な課題であり、仕事のマッチングがうまくいかないことや、中小企業での労働力不足などの課題が生じている。仕事の切り出しは大きなテーマであるものの、誰がどうやって実行していくかは難しいところで、行政の支援が必要というのは事実だと思う。
- 委員 4
- ・アウトソース化が可能な仕事の整理や柔軟なマインドセットが必要である。成功体験が共有され、仕事のアウトソーシング体制が整備されれば、地域内での仕事の循環が生まれる可能性も考えられる。
- 座長
- 委員 5
- ・できる範囲で提案を反映していただきたい。
  - ・市民サービスが住民に適切に届いているのかどうか疑問である。
  - ・市役所のホームページは活字ばかりで伝わりづらいと感じる。AIで案内してくれるような、チャットで相談できるようなページを作成すれば、高齢者でも操作ができ、情報が手に入りやすいと考える。
  - ・歴史や文化の継承も難しい課題。例えば、自身の寺院でもお斎（とき）の調理が人手不足でお弁当に変わるなど、文化が失われつつある。地域の郷土料理を皆で作ることで文化継承ができることもあり、寂しいことである。例えば、お寺と関係ない人、門徒さん以外でも文化を体験したい人はいるかもしれない。そういった人たちに参加いただけるようにするだとか、情報を発信することが地域文化を残していくために必要かもしれない。
- 事務局
- ・AIの活用については、市のホームページもそうあるべきと考えている。生成AIを取り込んでチャットボットで回答していけるようなサービスも模索していきたい。いただいた意見を参考に情報解決の在り方を探っていきたいと思う。
  - ・先ほども挙がっていたサービスデザインの考え方を活用する等、デジタルの力でよりわかりやすくという解決方法もあると考えられる。
  - ・歴史文化についてはまさしく課題であると認識している。「長浜らし

さ」と先ほど言われていたが、大事なものを守っていけるように、良い意味で緩い繋がりを大切にしていくということを次の総合計画を作る際にも意識していきたいと思っている。

座長 ・地域文化の件、食べ物に関しては調理短期大学や高校生を巻き込むことで地域学習も実現できる。そういった方向の連携ができればいいのではないだろうか。

委員 5 ・自治会の力が強い地域では、自治会から移住者や外から嫁いできた方への情報発信が出来ていない。  
・自身の活動として「すむすむ」という冊子を作り配布しているが、自治会からもこういう行政の方針を地域に情報発信するなどして自治会からの発信力を高めてもらえたらと思う。

座長 ・デジタル化の推進とともに、それをサポートする人材が各地域に入り込むような仕組みがないと、本当のデジタル化の効力が発揮されないのではないかと感じる。

委員 6 ・基本目標①の指標としている「製造品出荷額等における付加価値額の比率」というのは、低い方がいいのか。

事務局 ・高い方がよい。  
・基準値よりも目標値が低くなっていることについては、SNSのKPIと同様、令和4年度の数値が他の年代と比べて高かったこと、長浜市総合計画や長浜市産業振興ビジョンと整合性を取った結果である。  
・これについては基準値を令和4年ではなく他の年とするか、近年の平均値とするか、所管課と調整・検討していく。

委員 6 ・これまでから農業において雇い手と働き手のマッチング機関の必要性について話をしてきたが、農業に限らず「長浜らしい」仕事の括りとして、本日の仕事メルカリのような提案が進むことを望む。一般的な民間の派遣アプリなどの場合、手数料が非常に高く、労働者に支払える給与は最低賃金程度となってしまう。どれだけの手数料が必要になるかわからないが、できるだけ低ければいいと感じる。また、労働災害や源泉徴収など、事業者側の煩雑な手続きが必要であるが、行政から直接給与を支払う形で、事業者側の手続きを最小限に抑えられるようにするとありがたい。

・働き方の点、「働きたい人のための」といった表現を入れれば、柔軟なアプローチができるかもしれない。地域の事業が段々と簡素化してきており、長浜らしい働き方をする人は必要な人材資源だと思う。

・資料1の11ページに主な事業内容を挙げているが、新規就農者を増やすためには安定した農業経営が欠かせない。魅力ある農林水産業を推していくような、“魅力”ということを入れてほしい。

座長 ・事業概要のところを書くのか、主な事業内容のところを書くのか。

- ・魅力ある農林水産業の振興とかだと、魅力ない農林水産業は振興しないようなことになってしまう。
- 委員 6
- ・事業概要のところを書いていただければと思う。
  - ・スマート農業の件、補助事業の内容としては「ドローン」か「ラジコン草刈り機」、「自動操舵」の3つだけである。自動操舵は非常に便利だが、既に持っている人や一度補助金使っている人は補助がもらえない仕組みとなっている。この3つ以外にも、ロボットトラクターや直進アシスト田植え機なども補助の対象にしてはどうか。
  - ・11 ページのKPI「新規就農支援者数（累計）」について、これは就農支援をした人数なのか、支援を受けた人数なのか。
- 事務局
- ・補助金の見直しに関して、使いやすいスマート農業の支援が必要という意見があったことについては、農業振興課にも共有しており、予算の確保等の課題はあるが必要な支援を検討していければと考える。
  - ・新規就農支援者について、農業に携わっていく際の学習機会等を就農者支援として設け、支援を受けた人数を数えている。
  - ・魅力ある農林水産業を進めるために必要なことは何なのか具体化が必要。農業経営の省力化と安定化、担い手が確保されるような環境、そのあたりが喫緊の課題であり、解決することで魅力的になると考えている。
  - ・“魅力”という言葉は使うようにするとして、もう少し魅力化について具体化していかなければならない。
  - ・仕事メルカリについては、後ほど関わりある委員からも話をいただければと考えている。
- 委員 6
- ・魅力ある農業となるために、ということイメージしている。
- 座長
- ・あとで構わないので、アイデアがあれば事務局までお伝えいただきたい。
- 委員 7
- ・総合戦略（案）の最後のデジタル技術活用の項目について、デジタル技術活用は手段であることから、デジタル社会実現の方向やデジタル行政実現などといった言葉を用いて表してはどうか。
  - ・デジタル社会・行政実現のためには、それに即した行政組織やプロセスの実装も重要と考える。その点も具体的に検討されるとよいのではないか。
  - ・本日議論が出たサービスデザインや、アジャイル行政など、組織論的アプローチが今後必要になってくると思う。
- 委員 8
- ・自分の所属する会社も“参加と活動”が多く見られる場所であり、働きたい人、家庭を大切に人、様々な人がおられる。働く方がいいのか働かない方がいいのかという議論については、何が正解ということはないと思う。

- ・先ほどからの「働き方」の表現について、「就職を望む方は、」という書き方であればいいのかと思う。表現が尖っているということであれば、「自分らしい暮らしが柔軟にできるような多様な仕組み」とすれば、自分の理想とする暮らしを自分で選べるという表現になる。
  - ・基本目標③の基本的方向1について、在宅ワークはスキルを要するものであるため、在宅ワークに特化することなく、新型コロナウイルスの影響で働き方が変わってきているので、ニーズをしっかりとヒアリングし、女性活躍や両立という言葉だけが踊ることなく令和10年といった時期までに何か取組みが進められたらよいと感じる。
  - ・“仕事の切り出し”について、企業説明会などで企業ごとの考え方を整理している。仕事を切り出しても、その仕事を取りにいける人といけない人がいるので、そのサポートも必要と考えている。
  - ・働きづらさを抱える方へのサポートについて、持続的な支援の仕組みが必要と考える。超短時間就労している方は、病気や妊娠中、引きこもりの子どもの世話などの理由で働きにくい状況にあり、仕事はしたいが働けないというケースが多い。こういった人へのサポートや仕組みがあるといい。
  - ・17ページに関して、保育士の確保について「大学連携」と記載されているが、保育に関わる仕事として“保育補助”も高い関心を集めている。子育てを経験されてきた人にとっては自信のある分野であり、そういった方々の活躍の場を創ることとして大学以外との連携も考えていただきたい。
  - ・前回、「地域で働く人を知ったり、住んでいる地域の会社を知ることが大きくなったときに帰ってくる要素として必要」と述べて、19ページのとおり対応いただいたが、「多世代交流の場の充実」と書くと、おじいさんやおばあさんとの交流に聞こえる。
- 座長
- ・多世代交流だけでなく、地域内交流もある。地域における多様な交流という表現の方がいいかもしれない。
- 事務局
- ・「自分らしい暮らしが選べる柔軟な仕組み」というのは非常に大事だと考えている。その中でどういった仕事をするのか、一人ひとりに合った視点をどういうふうに考えていけるかが重要だと考えている。
  - ・保育士の確保に苦労しているなかで、潜在保育士だけではなく、今の子育て経験を生かした保育補助の仕事をやってみようという方への機会を作っていくことや情報発信することを大事な視点として検討していきたい。
  - ・地域と子どもたちの関わりや知るきっかけづくりについて、先日アンケートで「長浜の企業を知らない」という意見が多く見られた。企業の情報やそこで働く人を知る機会を作っていきたい。



- ・表現についてはいただいた意見をもとに、できる限り修正していきたいと思う。
- 委員 9
- ・最後のデジタルの項目については、既に公表されている「長浜市 DX 推進戦略」と符合した内容を記載しているため、私からは特に意見はないが、他の委員から意見をもらいたい。
  - ・事業概要が各ブロックに記載されているが、全てのブロックに必ず表現として「デジタル」という文言を入れていただけないかと思う。「デジタル技術をどう活用するか」という意識が醸成されるようになってきたが、本当に重要なのは実はもっと手前の段階であり、「デジタル技術があることを前提に発想する」ということである。発想段階でデジタル技術が頭になれば、「活用」という選択肢さえなくなってしまうからだ。その結果、デジタル技術を活用するか否かを選択するのは自由である。
  - ・事業概要の記載を見直しても「デジタル」という文言を入れられないブロックがある場合、事業内容にデジタル発想が不足しているということになるのではないか。
- 座 長
- ・詳細は別途事務局と打ち合わせていただきたい。
  - ・最後の図について、委員が言われた意味合いを反映した図を載せた方がいい。デジタルが取って付けたように各目標に串刺しになっているが、デジタル思考は“ベース”であるという形の図を用意すべきである。
  - ・「未来こども若者局」という部局名が要因と思うが、基本的目標③の「未来のこども育成」は意味が分かりにくいのではないかと思う。“未来のこども育成”はこども育成の未来を考えるのか、未来のこどもを育成するのか、それとも、未来へ向けてのこども若者育成なのか。
- 事務局
- ・未来のこども育成は、総合計画の重点プロジェクトの言葉であるが、「未来を担う人・子どもの育ちを包括的に支援する」という概念で議論がなされていた。日本語として分かりにくいというのも理解できるが、総合計画と整合性を取っているため、どうするかについては検討させてほしい。
- 座 長
- ・総合計画と整合性を取っているという整理ならば理解する。
  - ・今日の意見を踏まえた原案はパブリックコメント前に配布いただく形でよいか。
- 事務局
- ・全庁で照会をかけ、ブラッシュアップしたものをパブリックコメントにかける流れである。時間はあまりないが修正後に再度共有させていただく。
  - ・再修正ということまで時間が取れない可能性もあるため、予めご了承いただきたい。

- 座 長 ・再修正の時間が無いときはパブリックコメントで意見を出すということにすればよい。
- ・今回の資料については、一部修正前のものがあったため、差し替えということ改めて委員の皆さんに送っていただきたい。

#### 4 その他

- 事 務 局 ・今後のスケジュール等について説明

#### 5 閉会

- 事 務 局 柴田課長より閉会の挨拶

以上